

令和3年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属小学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
学教育 指導課程 等・	教科教育の一層の充実	教科教育の一層の充実と教科連携・教科間の協働的なカリキュラムに基づく教育を推進し, 学校教育目標「自主・協同・探究」を実現する教育を行う	(1)全教科の教育の充実とデジタル対応 (2)総合的学習の拡充および系統化 (3)教科間および教科と総合的学習を連携させたカリキュラムの構築	○全教科における新しいカリキュラムの開発状況 ○全教科・全学年におけるGIGAスクールの活用 ○各学年における総合的学習の系統表	教科と総合的学習を連携した教育課程を編成したが, 研究開発学校申請はかなわなかった。GIGAスクールの活用は実践の積み重ねによって, 成果と課題が明らかになっている。総合的学習の系統表についても, 試案として整理されている。	B	<他者>を楽しみ続けるという視点は, 「他者とのつながり」「他者へのまなざし」に関わる大切な部分である。学校の教育活動の中で, 子どもたちが様々な経験・体験をする場を確保してほしい。思考力・判断力等の変化を数値化して示すとよい。	A	令和4年度は学習指導要領に準拠した教育課程を実施しながら, 先駆的・先進的な教育課程を編成するうえでの仮説について, 研究部を中心に検討する。GIGAスクール・ICTの活用を活性化し, 教科担任制を生かした教育課程の基盤をつくるための協議を積み重ねる。
教育 研究等	大学や他附属との連携 強化	附属学校部との連絡・連携を密にし, 学部・附属共同研究体制に基づく研究を充実させる	(1)学部・附属学校共同研究の推進 (2)コロナ禍の状況をふまえた学部・附属間の授業研究の実施	○学部・附属学校共同研究の採択状況, 「紀要」への論文投稿 ○研究授業の実施状況 ○オンラインによる授業研究の実施状況	令和2年度に, 「初等社会科・理科における効果的なICTの活用方法」が採択されており, その研究成果が論文としてまとめられた。また, 全ての教科において, 大学教員を指導助言者として招いた授業研究が行われた。	A	すべての教科において, 日常的な研究連携・連絡が行われているようであるが, 学部・附属学校共同研究を一層促進し, 採択件数が増えることを期待している。コロナ禍の中でも, 研究活動が活性化することを望んでいる。	A	開催する授業研究において, 各教科で授業の構想段階から共同研究者との決め細やかな連絡・協力を行うようにする。共同研究者には指導助言を依頼するとともに, 授業を媒介とした人的ネットワークの拡大に努める。
	共同研究や調査の受け 入れ	大学の調査に協力し先端的な研究開発を推進する	(1)コロナ禍の状況をふまえ安全を考慮した共同研究や調査の受け入れ (2)附属発の研究プロジェクトの創出	○共同研究や調査, 学校参観等の受け入れ数 ○科学研究費の申請・採択率 ○研究拠点EVRI事業への参画	学部との共同研究として, 国語科1件, 算数科1件, 英語科1件が行われた。学校参観として, 社会科1件(中国新聞)音楽科1件(文教大学)を受け入れた。理科において日産財団から「科学的探究活動において子どもの学びを促進するICTの活用」をテーマとした研究に助成を受けた。	A	コロナ禍において, 人的交流が制限される中, 多数の研究協力依頼や調査依頼があるのは, 学校の存在意義が大きいことによるものと思われる。全教員が科学研究費の申請を行っているが, 採択数が増えるよう一層尽力してもらいたい。	A	基本的な考え方として, 共同研究や調査の協力依頼, 他校からの参観・視察等を積極的に受け入れていくことを原則とする。令和4年度は大学採用教員は科学研究費の申請を義務とし, 採択に向けて大学の研究者との協議を十分に行う時間を勤務上確保する。
	ESD・SDGsに焦点を当てた 先進的な研究開発	研究開発指定に向けてカリキュラム開発を行う	(1)ESD・SDGsの中でも平和教育を観点とした総合的学習の拡充と系統化 (2)ESD・SDGsの観点を取り入れた各教科および教科間連携による教育実践の開発 (3)ESD・SDGsの拠点としての図書館教育の充実	○教科指導および総合的学習における平和教育の集約 ○研究発表協議会における総合学習の研究発表・授業公開 ○図書館利用率の向上	児童による平和の歌づくりとそのCD制作など, ヒロシマの継承と発信を総合的学習の主題として, 実践を踏まえた人権・平和のプログラムが構築されている。研究発表協議会で「折り鶴」をテーマとした研究提案が行われた。図書館利用率については, 本の貸し出し件数昨年度比1.78倍と顕著な向上を示した。	A	ウクライナ侵攻をみると, 戦争・平和について考える意義は大きく, この機会に平和教育を促進してほしい。福祉領域における学習を推進すべきである。デジタル化の現代において, 図書館利用が増えているのはよいことだと思う。	B	各学年において教科と関連づけたテーマを設定したり, 平和教育の内容を体系化したりして, ESD・SDGsに基づいた総合的な学習の時間の教育課程を確立する。児童の探究活動を推進していく多目的教室の施設・設備を整える。

注) 太枠内は, 学校関係者評価委員会が記入する。

# 令和3年度 学校関係者評価報告書

評価点

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	概ね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校(園)名: 広島大学附属小学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況, 改善策	評価	意見・理由	評価	
社会 社会 貢献 連携 活動 等	国内外への研究成果の 発信	国内及び国外への発信力 の強化に取り組み, 参 観者および参会者の増 加を図る。	(1) ネットを活用した月刊誌 「学校教育」の拡充 (2) コロナ禍による状況を ふまえた「初等教育全国 協議会」の開催	○月刊誌「学校教育」の一 般購読者数の増加 ○研究発表協議会のハイ ブリッドもしくはオンライン開 催 ○学校要覧(和文・英文) の改訂	月刊誌「学校教育」の購読者数 は, 8件の微増であったが, コ ロナ禍で購読数を増やすことが できた。研究発表協議会につい ては, 本年度オンライン開催を行 い, 274名の参加者があった。 学校要覧の和文については, 記 載内容の検討による加筆・修正 を行ったが, 英文については, 昨年度と同様のものとした。	B	コロナ禍の厳しい状況の中で, 学びを止めないことに果敢に挑 戦している。ICTの活用につい て, 小学校の段階でこれだけ進 めていることは, 児童にとって学 びが大きいと思う。「学校教育」 の購読数が増加したのは, 微増 としても素晴らしい。HPの活用 に努め, 本校の教育活動・積極 的に実践を発信してほしい。	B	広島市が開催する教員研修へ の参加によって, 広島市教員と のより親密な関係を構築し, 本 校研究会への参加者の増加, 公立学校校内研修への講師依 頼等を促進する。「学校教育」誌 については, 教員の負担軽減を 鑑みながら, 発刊体制の改善を 図る。HPのアクセス数が増える ように, 内容や方法の改善を図 る。
	教育実習・教師教育の充 実	大学・教職大学院とも連 携をとりながら質の高い 教育実習・教師教育に 取り組む。	(1) コロナ禍による状況をふ まえた学部教育実習の実 施・充実 (2) コロナ禍による状況をふ まえた教職大学院アクション リサーチ実習の実施・充実 (3) スクールサポーター制度 の構築	○実習生アンケートにおけ る肯定的評価 ○オンライン会議アプリの 活用状況 ○初等講座との連携およ び制度設計の進行状況	「教壇における本校教諭の指導は 十分か」との問いに, 98%の実習生 が肯定的評価を示すなど, 教育実 習に対する高い評価を得た。教職 大学院アクションリサーチ実習を積 極的に受け入れることができた。特 別支援に係るサポーターを確保し, 配慮の必要な児童にきめ細かな指 導を行った。	A	教員志望の学生が減少する中 で, 教職の魅力伝えるとともに, 必要な資質・能力を養う有 意義な教育実習ができてい る。コロナ禍において, 可能な限り 有意義な教育実習の充実を 図っているのが見て取れる。	A	大学における講義内容と連携し て, 新任教員に必要な資質・能 力の見直しと指導内容の精選を 図る。指導する本校教員が, 共 通認識をもって指導することに よって, さらに一層教育実習の 成果を高めたい。
安全 学校 経営 等	一体感のある学校経営 働き方改革	[FUSHO Project Team] を掲げてチーム学校を志 向し, 一体感を生み出す 学校経営を行う。 働き方改革の確実な推 進	(1) デジタル化による学 校運営の効率化 (2) 教科内・教科間の研 究交流の活性化 (3) 校内施設の改善・改 修	○各種会議, 案内のペー パーレス化, オンライン化 ○児童情報の共有化 ○校内研の形態及び開催 回数	各種会議等におけるペーパーレ ス化, 保護者向け案内等のメール配 信の一般化はより一層促進してい る。研究交流の活性化については, 校内授業研究の開催によりある程度 保証されたが, 生徒指導上の問題 が情報共有されていない案件もあ った。施設の改善・改修については, 学長裁量経費によって大きく進展し た。	A	教科担任制による業務の多忙さ の中, 教師は細やかな学級の実 態が本当に見えているのか, す こし不安なところもある。コロナ感 染に伴い教師の仕事が増える 中, 外部委託できるところはする べきである。GIGAスクール構 想・デジタル化で, 教員の負担 が増加しているのではないか。 すずかけ会, 教育後援会も協力 したい。	A	教職員が職員室に集う時間の 設定と実施, 個別の指導が必要 な児童の状況と指導の共有化 等の取り組みを促進し, 組織的 ・協働的で風通しの良い職場に なるようにする。印刷室, 体育館 等の施設・設備の改善や, ペー パーレスによる業務のデジタル 化等により, 働き方改革を推進 していく。
そ の 他	入学調査の改善	入学調査を簡素化するた めに現行入学調査の内 容・形式・手順等に関 する問題点を明確にし, 適切な改善策を検討・実 施する。	(1) 入学調査に関する改 善策の検討	○内部資料(部外秘)	子ども像を明確にして, 入試問題 の作成に取り組むことが, より一層 適正な問題を作成することにつな がった。目的に照らし合わせなが ら業務の検討・見直しが行われ, 入学調査に係る業務負担の軽減を 図ることができた。	A	附属の使命を果たすためには, 入学調査の適正な実施は大変 大きな問題である。さらに一層 教職員の負担軽減を図るなが ら, さらに適正な入学調査の改 善に努めてほしい。	A	これまでの伝統的な方法や形式 にとらわれすぎないよう, 目的 に照らし合わせて一層入学調査 業務改善を図る必要がある。特 に, 本校教育目標をより反映さ せた調査の在り方について, 見 直し・検討を図りたい。

注)  太枠内は, 学校関係者評価委員会が記入する。